9月定例会概要

9/8～9/28の21日間

台風12号災害対策関連補正予算などを可決

対面式演壇から質問

9月定例会から、新たに執行部と向かい合った位置に演壇(対面式演壇)を設置し、従来から行っている一括質問方式に加え試行的に導入した一問一答方式、分割質問方式を活用して10人の議員が一般質問を行いました。

会期中の主な動き

■特別委員会の開催
東南海・南海地震等対策特別委員会 (9/8、27)

■条例案検討会の開催
歯科保健推進に係る条例案検討会 (9/9、26)

■特別委員会の設置
決算特別委員会を設置し、13人の委員を選任 (9/28)

決算特別委員会(定数13人)

平成23年9月28日選任・就任
◎委員長 ○副委員長

◎向井 嘉久藏　○山田 正彦
森 礼子　立谷 誠一
尾崎 太郎　山下 直也
濱口 太史　鈴木 太雄
谷 洋一　長坂 隆司
奥村 規子　多田 純一
岩田 弘彦

一般質問議員(10人)

9月20日(火)
谷 洋一　雑賀 光夫
藤本眞利子　平木 哲朗
立谷 誠一

9月21日(水)
角田 秀樹　高田 由一
谷口 和樹　中村 裕一
服部 一

9月定例会の主な質問とこれに対する知事や関係当局の答弁は、下記のとおりです。(要約抜粋)

災害対策

台風12号の災害復旧対策

問 台風12号は過去に例を見ない甚大な被害をもたらしたが、災害復旧支援に対する国への早急な働きかけ、また、県独自の対策をどう考えているか。

答 9月13日に国に対し、激甚災害の早期指定や被災者の生活再建に向けた支援等、8項目の緊急要望を行った。また、危機状態の市町村に多くの人員を派遣し、被災者の確認やニーズ調査、ボランティアやごみ処理等の支援を行っている。今後、応急復旧に全力を挙げ、仮復旧、本復旧に取りかかり、本県の機能を一日も早く取り戻したい。

災害発生時の市町村との連携

問 災害発生時の行動指針や初動マニュアル等は地元市町村で十分検討しておく必要があるが、市町村の体制づくりへの県の支援も大切である。現在の連携状況と今後の対応は。

答 今回の予想を上回る豪雨では避難指示等の発令判断が難しかったと考えるが、国でも発令判断基準の見直しに取り組むと聞いており、県でも専門家の意見を聞きながら検討していく。安否確認に係る市町村との連携については、平成21年度に、東南海・南海地震に備え、孤立化の予測される地域への市町村防災行政無線等の整備を支援したところである。

ため池の防災対策

問 県内には約5500のため池があり、地震・台風が続く中、地域住民の生命・財産を守るために早急な対策が必要であるが、現状の取組と今後の対策はどうか。

答 県では、地域防災計画に位置づけられたため池など、420カ所で第1次耐震診断を行い、そのうち特に危険度の高い82カ所では第2次診断を実施し、62カ所が要対策となっている。市町村の要望を受け、要件の整ったため池から県営ため池等整備事業を実施するとともに、平成20年度から管理者に点検マニュアルを配布し、日常点検の充実強化を指導している。

土砂ダムの現状と復旧

問 台風12号の土砂崩れにより出現した田辺市熊野(いや)の土砂ダム、熊野川に流れ込む奈良県の土砂ダムの現状と復旧の見通しは。

答 同様のダムは今までにも全国各地で発生しており、その都度、国土交通省が知見を蓄えており、制度もあるため、直轄で対処してくれるよう求めている。既に水を抜いて水路をつくる工事を直轄で始めていたが、別の台風が来て中断している。その工事が完成すると地域に戻れる可能性が高くなるので、早急な実施をお願いしている。

通学困難な高校生への支援

問 自宅が被災していなくても、道路事情で学校に行けず、入寮手続をしたりアパートを借りて対応している家庭もある。経済的な負担も大きいが、これまでどのような手だてをしてきたか。

答 災害直後から教員が家庭訪問して生徒の安否を確認し、生徒や保護者からの相談に乗るなど、きめ細かな支援を行っている。JR等の運休に対応してバスをチャーターし通学手段を確保するとともに、通学路の復旧に時間がかかりそうな生徒には寄宿舎等、県保有施設の活用を働きかけるなど、学校と連携をとりながら鋭意対応している。

エネルギー

脱原発に対する知事の考え方

問 福島原発事故を引き起こした危険性から、改めて原発撤退の必要性を痛感したが、知事は脱原発をどう考えるか。

答 全体として、我々が生きていく、雇用を守っていくためにエネルギーの総量を確保しなければならないこと、また、太陽光発電など再生可能エネルギーの導入を積極的に行って多種多様なエネルギー源のバランスミックスを図っていくこと、という2つの視点が重要である。

常任委員会活動リポート

建設委員会

建設委員会では、8月24日・25日に近畿自動車道紀勢線(田辺～すさみ)、国道371号橋本バイパス、国道169号竹原拡幅及び奥瀞道路Ⅱ期、県道井ノ口秋月線、県道井関御坊線の道路整備事業並びに河川整備事業1カ所、下水処理場事業1カ所、ダム整備事業1カ所、海岸整備及び津波対策事業1カ所について、進捗状況及び現状について調査を行いました。

今回の調査では、高速道路と合わせて県内の一体的発展に寄与する府県間道路、川筋ネットワーク道路等の幹線道路整備と津波や洪水等の災害対策としての河川整備や港湾整備の地域住民に及ぼす効果を確認するとともに、早期完成に向けた取組の必要性について意見交換を行いました。

和歌山県の国道・県道の改良率(注)は、全国ワースト3位と大きく立ち後れていることから、県民の命とくらしを守る重要な道路である各幹線道路の一日も早い完成を強く要望しました。

(注) 国道：全国91.6%
(都道府県管理) 県 60.3%
県道：全国67.9%
県 42.7%
(H21.4.1現在)

近畿自動車道紀勢線(田辺～すさみ)
白浜町・平間トンネル工事現場